



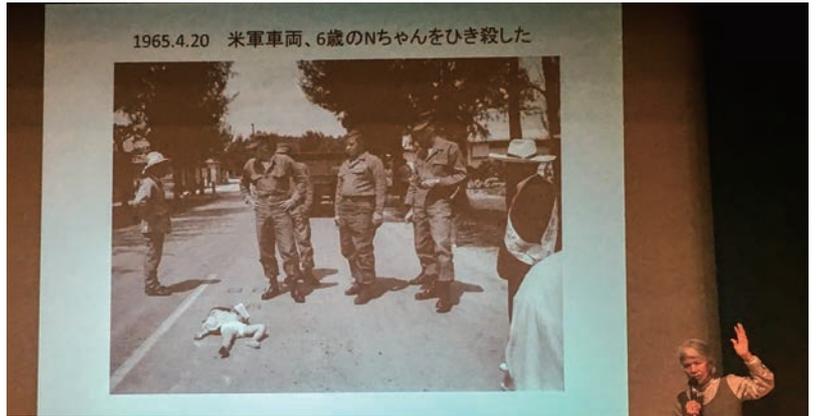
米軍新基地
建設NO!

沖縄を平和の島に

7日、赤羽会館で、私も呼びかけ人の一人として名を連ねた「翁長知事追悼・オール沖縄連帯・辺野古新基地建設反対!『オール沖縄』連帯のつどい」(主催・同実行委員会)が開かれました。(のの山けん)

前半は、実力派俳優・右田隆さんによる「9条への生還」。ベトナム戦争にも従軍した元海兵隊員の故・アレン・ネルソン氏と日本国憲法との感動的な出会いを描いた渾身の一人芝居です。

戦場に送られた兵士が
1965年4月20日に、
6歳の少女が米軍のト
衝撃が走ったのは、
本土復帰前、米軍が
駐留していた沖縄で、命
の危険にさらされながら
シャッターを切り、沖縄
の真実を伝えてきた体験
をリアルに語りました。



元海兵隊員のアレン・ネルソンを演じる右田隆さん



写真を示し講演する嬉野京子さん

敵と対峙した時、銃でどこを狙うのか。頭?それとも心臓? 答えは「男性の急所あたり」。すぐに死なずに、じわじわとダメージを与えて殺すのが目的とのこと。戦争の残酷性を示すエピソードも交えながらの迫真の演技に、会場が静まり返りました。

後半は、写真家の嬉野京子さんによる記念講演「沖縄を語る」。

翁長知事追悼・辺野古新基地建設反対! 「オール沖縄」連帯のつどい

トラックにひき殺された現場の写真がスクリーンに映し出された時。騒ぎに気がつき外に出てみると、ピクリとも動かさずに横たわる少女の姿が。「写真を撮ったら命はない」と警告されつつも、これを写さなければ沖縄の真実は伝えられないと、一瞬のチャンスをとらえてシャッターを押したと心境を語りました。

沖縄では現在、アメリカと日本政府が、名護市辺野古に米軍新基地建設を強行しようとしています。これに対し、命をかけてオール沖縄の心を守りぬこうとした翁長雄志前知事と、その遺志を引き継いだ玉城デニー新知事の下で、県民の反対闘争が続いています。占領状態を終わらせ、沖縄を平和の島にするために、連帯して頑張る決意を新たにしました。

「不屈」の闘い 沖縄の原点がここに

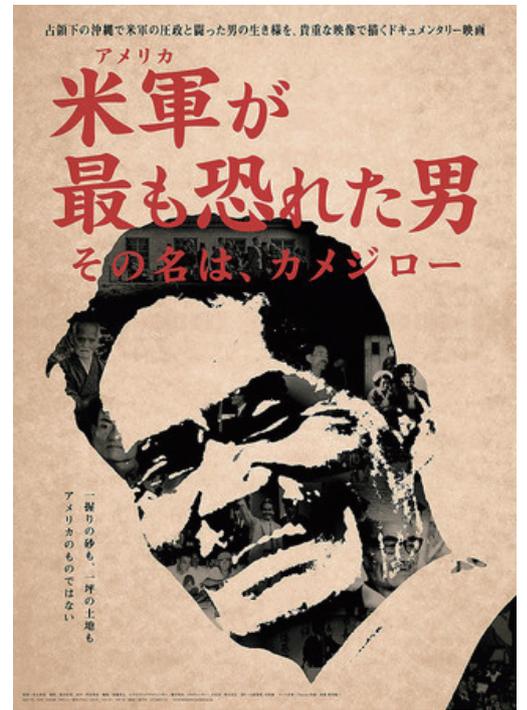
映画「米軍が最も恐れた男 その名は、カメジロー」
(佐古忠彦監督)

太平洋戦争末期には「捨て石」とされ、過酷な地上戦にさらされた沖縄。米軍占領下の「銃剣とブルドーザー」による土地収用、本土復帰後も日米両政府の思惑で占領状態が続き、自由も人権も蹂躪されてきた。しかし、沖縄の人びとは、黙って事態を受け容れてきたわけではない。それとは逆に、「不屈」の闘いを粘り強く続けてきたのだ。

その中心にいて、住民から最も信頼されていたのが、瀬長亀次郎である。

独特の風貌で、顔と名前はよく知っていても、米軍の圧政に体をはって抵抗を続けたカメジローの生き様を、ここまで克明に知ることができたのは初めて。報道の世界に身を置いてきた佐古監督の、「キャスター魂」を見た思いだ。

ドキュメンタリーは、カメジローが残した日記をひも解きながら、米軍支配の実態と抵抗の戦略を明らかにしていく。偉大な指導者は、ガジュマルの樹のように「不屈」であると同時に、敵からも慕われるようなおおらかさを兼ね備えていた。この楽天性にこそ、沖縄の原点があるのではないだろうか。(のの山けん)



がんばる 商店街

地域を支える商店が主役のイベントが2つ。3日には赤羽公園で開かれた「北マルシェ」、4日には飛鳥山公園で開催された「民商まつり」に足を運びました。

おなじみの店も多数出展。秋空の下、ブースをはしごしながら自慢の料理を心ゆくまで楽しみました。(のの山けん)

北マルシェ



民商まつり